双葉通信【第116回】　　“ふくしまに恋をして”　　　　　　　　　　210115

上　田　　勉

「住民ゼロ」の福島県双葉町議選（1月24日投票）　訴えどう届ける　？模索続く

立候補者も有権者も他市町村に居住―選挙事務所・宣伝カー・街頭演説―全て無し

「【福島】原発事故で全町民の避難が続く双葉町の町議選が24日投開票される。昨年3月に初めて町内の一部で避難指示が解除され、地元で選挙活動ができるようになったが、住民はゼロ。コロナ禍も重なり、候補者らは町民に訴えをどう届けるか、模索を続けている。

コロナ禍　集会が開けず悩ましい　有権者の生活地域分散　遊説断念

「ふるさと再生・復興のために！！」

「新生双葉町のために！」

告示日の1月14日午前、町議選の候補者らがJR双葉駅近くの選挙掲示板を訪れ、ポスターを貼った。生活インフラが整っておらず、住民の帰還は来年春以降だ。ただ、日中に一時帰宅したり、町内で働いていたりする町民もいる。

ある男性候補者は「よその街で選挙活動をするのはやりにくさがある。ようやく地元で活動ができるのは感慨深い」と話す。

町に住民票があるのは約5800人。うち6割強はいわき市など県内42市町村に、残りは埼玉など41都道府県に避難を続けている。今回の候補者も8人はいわき市と郡山市、1人は埼玉県加須市で暮らす。

一方、この候補者は「今回は訴えを届けづらい選挙だ」とも話す。

これまでは県内の仮設住宅を訪ね、街頭演説などをしてきた。だが、2017年春は県内6市町に175世帯がいた仮設住宅の町民は、今は1市3世帯にまで減った。

多くの町民が移り住んだ復興公営住宅では、双葉町以外の避難者もいる。「地元に有権者はいないし、町民以外も暮らしているところで街頭活動はしにくい。コロナ禍もあって集会も開けないので悩ましい」

別の候補者も今回、有権者がまとまって暮らす地域が少なくなったため、選挙カーで拡声機を使った遊説を断念。知人や友人を通じて電話で投票を呼び掛けたり、はがきを送ったりする活動を軸に据えた。

18日までにはがきは600枚ほどを発送したが、転居などで住所が変わっているケースもあり、20枚ほどが宛先不明で返送されたという。「訴えが届かなければ選挙への関心ももってもらいにくい。投票率にも影響が出そうで心配だ」と話している。

（古庄暢）」（「朝日新聞」21年1月22日付け）

【双葉町】大熊町と福島第一原子力発電所が立地。町全体で住民の帰還ができない
有権者数：　5,018人（男2,407人、女2,611人）（13日現在）
避難先：福島県内は、いわき市など41市町村、福島県外は、埼玉県加須市など41都道府県、投票場所：いわき市・郡山市・埼玉県加須市の3個所

【町内居住の立候補者も有権者もゼロ人ーポスター掲示板（双葉町）】

【10 年の時が止まっている商店街（双葉町）】